

## 中山間地における観光レクリエーションに関連する 生態系サービスの地理的構造

田中伸彦 [東海大学観光学部]、杉村乾・宮本麻子・松浦俊也 [(独)森林総合研究所]

キーワード：森林生態系サービス 福島県只見町 メッシュ分析

### 1. 研究の背景・目的

生態系サービス (Ecosystem Services) とは、我々の日常・非日常の生活における活動や事象に対し、生態系がもたらしてくれるサービスのことである。この生態系サービスという概念は、2001年から2005年にかけて国際連合が実施した「ミレニアム生態系評価 (MA)」で、人間に対する生態系サービスの評価を行ったことから世界的に広まった。

現在、生態系サービスは、その内容から 1)食料や水、木材などを我々に提供する「供給的サービス」、2)気候緩和や農作物の花粉媒介を促すなどの「調節サービス」、3)観光レクリエーション的利用や伝統文化を育むなどの「文化的サービス」、4)山地災害・土壌流出の軽減や水源かん養などの「基盤的サービス」、の4つに分類されている。上記4つの分類のうち、観光レクリエーションに最も深く関わるサービスは「文化的サービス」である。

本研究では、森林国である日本の中山間地域 (福島県南会津地域) を対象に、森林生態系サービスが観光レクリエーション的利用に与える影響について、メッシュ分析を用いた地理的解析を行い考察した。

### 2. 対象・方法

#### (1) 対象地

対象地は福島県の南会津地域の5町村(只見町・檜枝岐村・昭和村・南会津町・下郷町)とした(図1)。この地域は県の南西部、新潟、群馬、栃木県との県境に位置する。自然環境としては「尾瀬国立公園」や「越後三山只見国定公園」をはじめとする自然公園や雪深い山々、広大なブナの原生林に囲まれ、冬の多雪により1年を通じて豊かな水が供給され美しい溪流と川が流れている。観光レクリエーションについては、自然条件を生かした登山やスキー、溪流釣りや山菜採り、グリーンツーリズムやエコツーリズムの取組みが行われている。

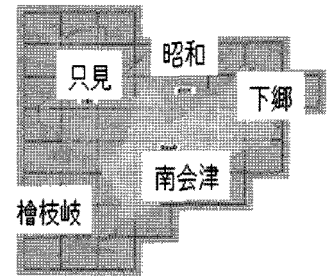


図1 対象地位置図

#### (2) 方法

方法としては、対象地域内を3次メッシュ(1kmメッシュ)に区切り、各メッシュ内に存在する既存観光資源・施設数を把握し、それらの重要度を算定した上で、5×5メッシュのフィルタリング法<sup>1)</sup>により各メッシュの得点を数値化し、メッシュ図を作成した。なお、対象地域内の既存観光資源・施設数の把握については、日本観光協会の「全国旅そうだん」データベース<sup>2)</sup>を活用し、位置を正確に把握するために現地のグランドトゥールズを行った。

次に、上記の手法で作成されたメッシュ図の高ポテンシャル地の得点内訳を調べ、得点形成に森林生態系サービスがどの程度寄与しているのかについて分析を行った。

### 3. 結果及び考察

#### (1) メッシュ解析の結果

「全国旅そうだん」データベースに記載されている位置が特定可能な観光資源・施設は全部で 236 存在した。

そして、フィルタリング法で解析した結果、42 箇所の高ポテンシャル地域を見いだすことができた(図 2)。

42 箇所の高ポテンシャル地域のうち、主に純粋に自然資源に依存した地域が 17 箇所、40%を占めていた。しかし、その 17 箇所のうち、12 箇所、つまり 29%は高ポテンシャル地域の中では下位層に位置していた。

高ポテンシャル地域のベスト 10 に限れば、40%が自然風土に根ざしているものの区分的には文化資源に依存する観光レクリエーション地域であった。

つまり、自然資源依存の高ポテンシャル地について、箇所数は多いが高い得点の箇所はさほど多くないという状況が今回の調査から明らかになった。

#### (2) 考察

上記の結果を元に、対象地の地形と組み合わせた考察をすすめたところ、図 3 のとおり山頂付近の森林生態系サービスの影響が強いウィルダネス的利用地域と、谷部に位置する山からの供給サービス享受して成立する既存観光地に大きく二分されることが分かった。そして、その中腹にあたる地域は山菜・きのこ採取や・溪流釣りなどデータベースでは把握が難しい利用にあてられていることが追加の聞き取り調査で明らかになった。

#### 4. まとめ

以上、南会津の観光資源・施設の分布状況をメッシュ地図化し、フィルタリング法により 236 箇所の集散状況を解析し、42 箇所の高ポテンシャル地域を見いだした。

高ポテンシャル地域の 3 分の 1 は、自然資源に依存した地域であったが、上位地域に限ると文化資源依存型の比率が多くなっていた。

高ポテンシャル地域の地形と土地利用に着目すると、山頂・尾根か谷あい集中した。しかし、中腹も山菜・きのこ取りなどのフィールドと場所的棲み分けがなされている状況が把握された。

なお、本研究は、環境省の地球環境研究総合推進費 (H-081) の支援により実施された。

#### 【参考文献】

- 1) 田中伸彦・渡辺貴史(2002)中山間流域における森林管理上重要な観光レクリエーション地域の構造域の構造,ランドスケープ研究 65(5):615-620
- 2) 全国たびそうだん(社団法人日本観光振興協会)を参照した。URL: <http://www.nihon-kankou.or.jp/index.php>

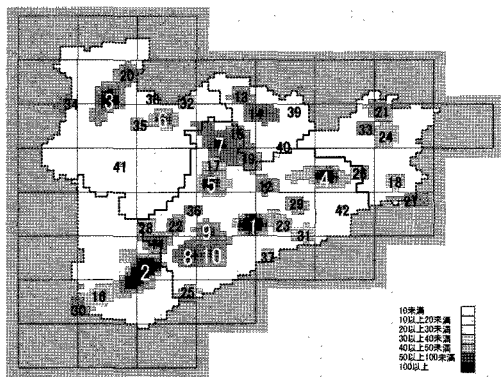


図 2 42 箇所の高ポテンシャル地域

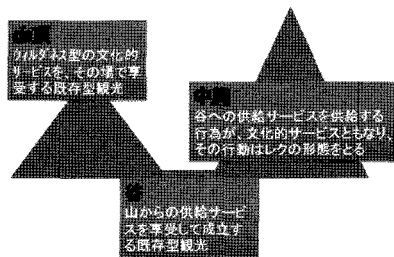


図 3 生態系サービスと地形との関連(概念図)